

平成28年度第1回学校評議員会記録(記録)

期日 平成28年5月24日(火)

会場 一関清明支援学校 本校舎 図書室

進行 星 紀子 副校長

1 開会のことば (入駒一美副校長)

2 校長挨拶 (菅原敬子校長)

学校経営では子どもたちが安全に安心して生活していくためにどうしたらよいか考えている。社会全体で連携していくことが大切である。学校評議員、第三者の意見や視点をいただき学校経営に生かしていきたい。

3 評議員及び職員紹介(評議員1名欠席)

4 協議・報告

(1) 平成28年学校経営計画について

- ・校長より資料に沿って説明

(2) 平成28年度教育活動について

① 学部・分教室

- ・石川敬副校長から資料に沿って幼児児童生徒の状況について説明
- ・各学部主事より、それぞれの学部の教育活動についてパワーポイントの写真に沿って説明

② 進路指導

- ・進路指導主事から中学部・高等部卒業生の進路の状況、企業連携について説明。

③ 相談支援

- ・支援活動の状況について説明。
- ・今年度は県の事業である「ボランティア養成講座」の担当校となっている。

5 学校評議員からのご提言

○ 学校評議員A様

平成19年度、千厩分教室の設置に関わった。共に学ぶ教育が進んでいると感じる。

(Q) タブレットを具体的にどのように使っているか？

(校長) 管理は学校で行っている。修学旅行などの調べ学習や、国数・数学などの教科でアプリを活用している。生徒は目に見えて関心を持つ。発達障がいのある生徒にも有効。自立活動でも使用中である。

(Q) 合理的配慮にどのように向き合っているか。

(校長) 支援学校は人的にも施設のにも合理的配慮がされている。一人ひとり個別の指導計画、支援計画を作成しているがどの部分が合理的配慮なのかを意識し明記することが大事。それが進路先へ引き継がれていくことが大事である。いろいろな子どもたちの就学相談があり、本来はどの場が適切なのかをとらえていくことが大切。連続する学びの場を切らさないよう空白の場面がないようにしていく。

○ 学校評議員B様

幼稚園でも支援を必要とする子が右肩上がりが増えていてのではないかと。清明支援学校の存在意義が高まっている。可能な限りつながりを続けていきたい。人づくりの交流をしていきたい。

○ 学校評議員C様

卒業生で当施設に来た子は愛校心が強い。カバーをしあう様子がみられOBとしてのつながりを感じる。作業はスピード重視で、入って間もない子は対応できずにいるが、愛校心で助け合って頑張っている。今後とも関係を密にしていきたい。2校舎3分教室を組織的に運営、プログラムも考えられていて素晴らしい。

(Q) 相談、苦情への説明、対処はどのようにしているか？

(校長) 大きな事故は3年間おきていない。苦情については学校評価が年1回あり、保護者、関係機関から評価をいただき紙ベースで回答している。第2回の学校評議員会でも説明する予定である。普段の苦情が入ってくる流れは1番目に担任、2番目に学部長、3番目に副校長、4番目に校長という順で対応するがケースに対応して、どの場面で対応するかをコーディネートする。必要時には支援会議などでも対応策を練る。

○ 学校評議員D様

(Q) 幼小学部では年4回の保護者説明会が開かれているが内容は？

(幼小学部主事) 1回目は聴覚、病弱の子の言葉を育てる内容。2回目は食に対する内容(偏食)。3回目は進路に関する内容。4回目は規則正しい生活によるよい影響。

千厩分教室の小・中学校の特別支援学級の子ども達との交流、保護者との交流は？

(千厩分教室中学部主任) 月に1回ペースで交流している。親同士の交流については特に企画はしていない。

(Q) 進路では6月にアフターフォローがあるが年何回行っているか？

(進路指導主事) 10月、在校生が実習でいったときも話を聞きに行く。4月には全員ではないが行っている。他は連絡が来る。卒後3年まで実施。

幼稚部の学習であった、「体験して言葉を教えていく」ことはその通りだと感じる。

昨年度の大相撲のように児童生徒がボランティアに行くことがあればよい。

6 学校長お礼のことば

7 閉会のことば (入駒一美副校長)